

# 「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～私たちに平等に与えられている「三つの資源」とは・・・～

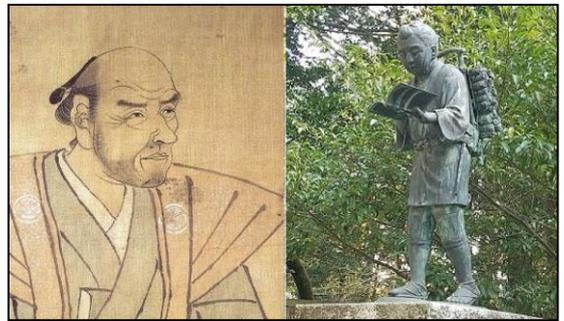
始業式や終業式でよく「1日24時間という『時間』」これだけは誰にも平等に与えられている。そして、『時間』というのはお金とは違って、「後で使う」「貯めておく」ことはできない。『今』という『時間』はもう二度と帰ってくることはない。だから使い方を考えて・・・という話をよくしますよね。

社会教育家の田中真澄さんは、「私たちに・・・『三つの資源』が平等に与えられている」とおっしゃっています。では・・・どうぞ・・・

私たちに平等に与えられている三つの資源は『時間』と『ことば』と『ころ』です。

この三つの資源のうちで「ころ」は最重要です。「ころ」を抱く態度を「心構え」（心理学では心的態度）といいますが、この心構えを江戸時代の二宮尊徳は『心田』と称し、田んぼの稲の世話を毎日きちんと行っていれば、稲は順調に育つように、心田の手入れも毎日行うことで、人生も順調に展開していくと説きました。

尊徳の有名な言葉に「積小為大」があります。小さな良い習慣をコツコツと続けていくことが大きなよい仕事に繋がることから、日々の正しい務めを行うことの大切さを、この言葉は示唆しています。こうした尊徳の教えを「報徳思想」と言い、道徳教育の基本として子どもたちは学びました。（中略）



「ころ」という資源は、心構えが備わってこそ、私たちの力になっていくのです。この心構えを人間にとって最も重要な能力と考えることが肝要です。

私は・・・「ころ」の有効活用で手にする『心構え』は、機関車の能力。

「時間」の有効活用で手にする『専門力』。

「ことば」の有効活用で手にする『対人力』は客車の能力と言っています。

『心構え』を磨くには・・・「積極性」・「明朗性」・「利他性」の三分野の行動、考え方のよい習慣を保ち続けることが大切です。

「積極性」を磨くには、早起き、「挨拶・返事・後始末の三原則」の励行といった行動が求められます。考え方の面では目標設定（重要なことを最優先に）が鍵を握っています。

「明朗性」を磨くには、行動としては笑顔訓練、考え方として陽転思考（物事をプラス面で受け止める）を大事にしましょう。

「利他性」を磨くには、相手ファーストの行動、利他主義（他者の利益を優先）の考え方を保つことが欠かせません。

以上のようなよい習慣を継続していくと・・・多くの人間に助けられ、運もついてきます。

したがって、『心構え』を最高の武器として、人生を生き続けることを心掛けたいものです。

「致知」6月号 人生百年時代を生きる 社会教育家 田中 真澄

どうでしたか？私たちに平等に与えられている豊かな人生を生きるための『三つの資源』なかでも「ころ」を大切に磨いて「心構え」を築き、「時間」・「ことば」を有効活用していきたいものですね。

私は野球部の顧問をしています。部員たちが書いている「野球ノート」の表紙に、目先の結果（利益）を欲しがり、「技」ばかりを求めようにならないように「心・技・体」ではなく・・・「心・体・技」と必ず書いています。（いずれにせよ「ころ」・「心構え」が何事においても、すべての土台ということなんですね。）